

加賀市立錦城東小学校

学級数：8学級 児童数：162人

【テーマ】

健康な生活を送るための知識や行動の仕方について学び、自分に合ったより良い方法を考え行動しよう。

1 はじめに

低学年の頃より児童らの健康課題であるメディアとの付き合い方や生活習慣、運動習慣について保健指導を積み重ねてきた。児童の中に生活習慣を整えることは健康に良いという知識の定着はあるが、自分事として考えたり、実生活でできることを自己選択して行動に移したりする力に課題がある。また、行動に移すことができたとしても、継続して行うことが苦手な児童が多い。

そこで、養護教諭とも連携した授業において、生活習慣病の一つとして「がん」についても正しく理解させるとともに、がん経験者の話を聴くなどの経験等も通して、児童が自らの健康を守るためにできることを深く考え実践しようとする意識を向上させたいと考えた。

2 実践

(1) 授業の流れ

全体で9時間構成とし、保健体育科(保健領域)「病気の予防」の単元の間に特別活動(学級活動)として、本授業(2時間)を入れた。

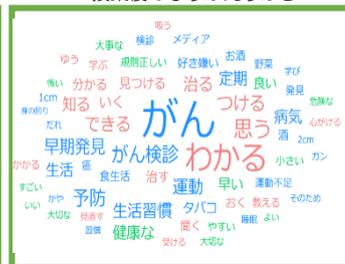
1時間目には、がんという病気について知り、理解を深める授業を養護教諭とのTTで行った。2時間目には、外部講師としてがん経験者を招聘し、直接話を聴いてこれからの自分の健康を考える学習をした。

また、事前にごんに対するアンケートを行い、児童のごんに対する意識調査を行った。授業後にもアンケートを行い、その意識の変化を見取った。

がんのイメージ (授業前)



授業後のふりかえりから…



(2) がん経験者とのT・Tによる授業

がん経験者の方から「病気になって分かったこと、気づいたこと」についてお話していただいた。具体的に、「病気と闘うためには、丈夫な体が必要。」「健康な体でないと、受けられない治療もある。」といった話を聴き、児童は、今自分が健康であることのありがたさや、健康を維持していくことの大切さについてより自分事として考えていた。実際に、前時のがんについて養護教諭と学習を行った時よりも具体的な取組目標を考えていた。



(3) 養護教諭との連携

養護教諭とは、単元全体について、共に指導計画を立てたり、授業の内容や教材について考えたりした。

1時間目の授業では、TTで授業を行い、その専門性から、がんという病気が発生するメカニズムやどのようにして進行していくのか、早期発見・早期治療が大切であることについて

て授業をおこなった。

また、がん教育に関する掲示物を作成し、学びの振り返りと、全校に向けて今回の学びの発信を行った。



(4) 児童の感想

児童 A

講師の方から、がんになったときの辛さや治療のために他のところを健康にする必要があるなどのすごく辛くて大変そうなことを聞きました。私は、今できる対策や健康に良い生活を家族と一緒にしていきたいと思いました。

児童 B

健康な人はがんにはならないと思っていたけれど、講師の方は健康だったのに急にがんになったと聞いて、規則正しい生活を送ることが大切だと思いました。

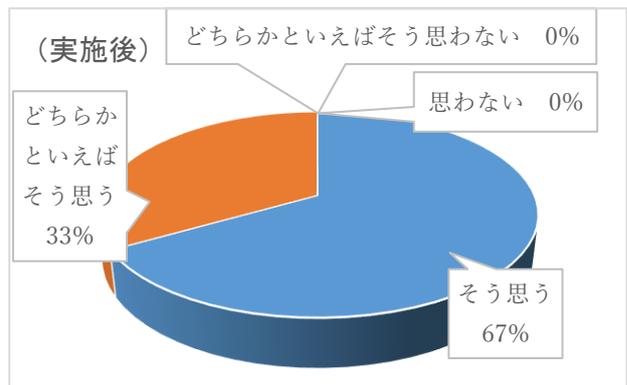
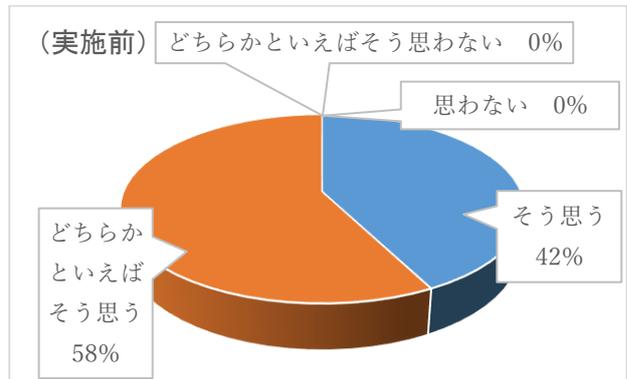
児童 C

これから健康な体を作るために、スマホ・ゲームは寝る前は触らないようにして、早寝早起きを心がけたいなと思いました。また、改めて生活習慣を見直していきたいなとも思いました。そして、20才になったら、定期的ながん検診にいて、早期発見で長生きできるようにしていきたいなと思います。

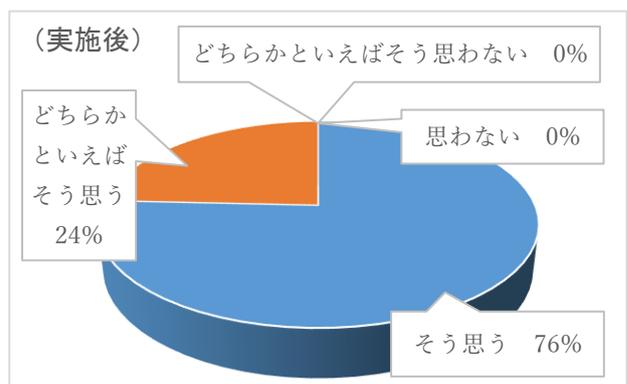
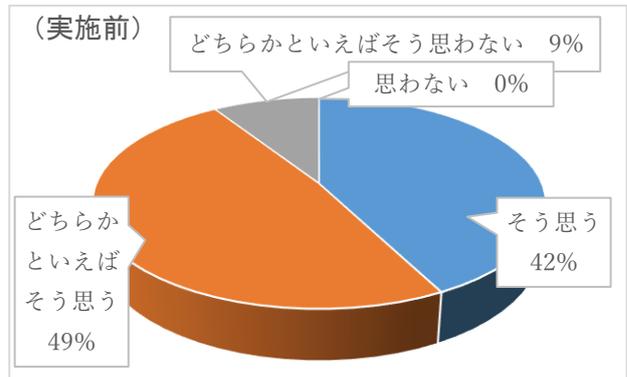
3 児童アンケートの結果

アンケート結果から、病気や健康に対する意識の変化が見られた。特に生活を見直し、健康な体作りに取り組みたいという意欲が高まったことが分かる。また、家族と健康について話すことや、大人になったらがん検診を受けることについても肯定的な回答が増えるなどの変化が見られた。

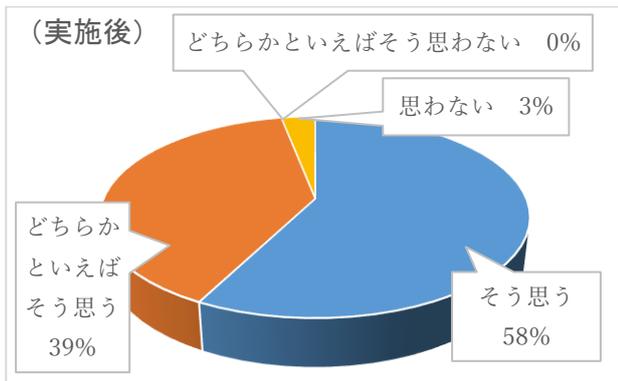
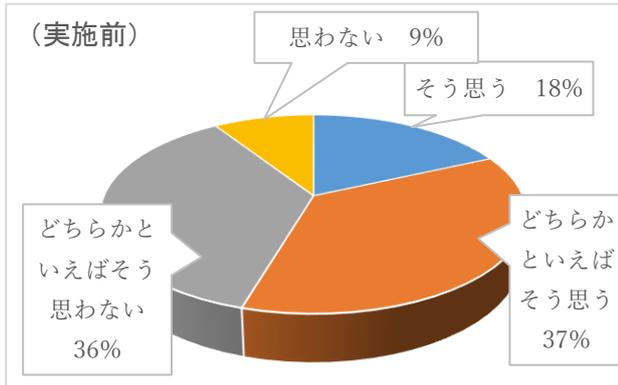
■ 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。



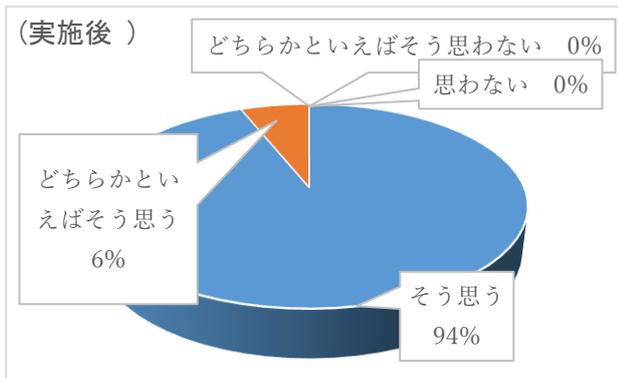
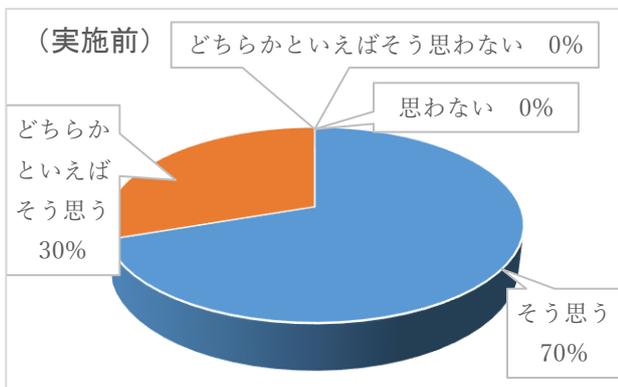
■ がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。



■ がん和健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う



■ 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う



4 実践の成果と課題

〇〇成果〇〇

- 授業の前と後では、病気や健康に対する意識の変化が見られた。給食の時間には、野菜を減らさないで食べたりお代わりするなど、自分には何ができるかということをも具体的を考えている様子もみられ、健康に過ごすために行動していきたいという意欲が高まっていたように思う。また、授業の振り返りをみると、児童のがんに対するイメージも大きく変わった。
- 保護者からの手紙の返事を読むと、しっかりと家族で健康について話し、家族でどんなことに気をつけていくのか、具体的に何に取り組んでいくのかまでしっかりと考えてくれた家庭が多かった。
- 当初は担任や養護教諭が、がんについて説明をしても、どこか遠く感じ自分にはあまり関係がないように感じている児童もいたが、今回、がん経験者の方から直接話を聞くことで、病気のことやがんのことをより身近に自分事としてとらえることができた。

◆◆課題◆◆

- 外部講師との打ち合わせがとても大切である。児童が何を考えるためにどんなことを語ってもらうのかをもっと詰めて、伝えておくべきだった。
- 今回の授業で変化した意識や、高まった意欲をどのように継続していくかについて課題がある。今後も、継続して自分の生活習慣について振り返り、健康について考える機会を設けていく。
- 小学校の学習指導要領では、「喫煙の害」の授業の中で、長期の喫煙による害の一つとしてがんについて触れる程度の記載になっている。どの教科で取り扱うのか、どこまで詳しく内容に踏み込んでいくかについて悩んだ。今後、児童の実態に合わせて取り扱いについて検討を重ねていく。